

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		短期大学の学科の設置								
フリガナ設置者		ガッコウホウジン チョウセイ 学校法人長聖								
フリガナ大学の名称		ナガノジョシタンキダイガク 長野女子短期大学 (Nagano Women's Junior college)								
大学の位置		長野県長野市三輪9丁目11番29号								
大学の目的		「配慮ある愛の実践」を建学の精神に掲げ、豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、みずから考えて行動できる人材を育成する。								
新設学部等の目的		子どもの健やかな育ちの実現にむけ、安定した質の高い教育・保育が提供できるような乳幼児の教育・保育人材の養成を行い、地域の子ども・子育て支援活動を担う人材の育成を目的とする								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	年	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	幼児教育学科 (Department of Early Childhood Education) 計	2	50	—	100	短期大学士 (教育学)	令和6年4月 第1年次	長野県長野市三輪 9-11-29		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		令和5年4月 学科名称変更予定 生活科学科→食物栄養学科 (令和4年11月22日届出済) 令和6年4月 大学名称変更予定 長野女子短期大学→長野短期大学 (令和5年4月届出予定) 令和6年4月 食物栄養学科定員減(△5) (令和6年4月) 令和5年4月 食物栄養学科の収容定員に係る学則変更届出予定 令和6年4月 男女共学化とするための学則変更予定 令和5年6月学則変更届出予定								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	幼児教育学科	講義	演習	実験・実習	計	64単位				
		22科目	43科目	4科目	69科目					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	幼児教育学科	4人 (4)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	7人 (7)	0人 (0)	23人 (15)	
		—	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
		計	4人 (4)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	7人 (7)	0人 (0)	23人 (15)	
	既設分	食物栄養学科	4人 (4)	2人 (2)	4人 (4)	1人 (1)	11人 (11)	3人 (3)	8人 (8)	
		—	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
		計	4人 (4)	2人 (2)	4人 (4)	1人 (1)	11人 (11)	3人 (3)	8人 (8)	
	合計		8人 (8)	5人 (5)	4人 (4)	1人 (1)	18人 (18)	3人 (3)	31人 (23)	
	教員以外の職員の概要	職種	専任		兼任		計			
		事務職員	8人 (7)		0人 (0)		8人 (7)			
技術職員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)				
図書館専門職員		1人 (1)		0人 (0)		1人 (1)				
その他の職員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)				
計		9人 (8)		0人 (0)		9人 (8)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	運動場用地 9,481.15㎡につ いては、長野女 子高校と共用 (基準面積8,400 ㎡) その他用地 2,222㎡は長野 女子高校と共用				
	校舎敷地	4,974.51㎡	0㎡	0㎡	4,974.51㎡					
	運動場用地	0㎡	0㎡	9,481.15㎡	9,481.15㎡					
	小 計	4,974.51㎡	0㎡	9,481.15㎡	14,455.66㎡					
	そ の 他	20,127.51㎡	0㎡	2,222.00㎡	22,349.51㎡					
合 計	25,102.02㎡	0㎡	11,703.15㎡	36,805.17㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		4,792.78㎡ (4,792.78㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0 ㎡)	4,792.78㎡ (4,792.78㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	短大全体				
	9 室	8 室	5 室	2 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		幼児教育学科		11 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	短大全体		
	幼児教育学科	33,500 [1,701] (33,400 [1,701])	13 [1] (12 [1])	0 [0] (0 [0])	360 (352)	1,280 (1,268)	8 (8)			
	計	33,500 [1,701] (33,400 [1,701])	13 [1] (12 [1])	0 [0] (0 [0])	360 (352)	1,280 (1,268)	8 (8)			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		短大全体				
		189.61㎡	60	40,000冊						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				短大全体			
		577㎡	テニスコート1面							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		教員1人当り研究費等		150千円	150千円	- 千円	- 千円	- 千円		- 千円
		共同研究費等		0千円	0千円	- 千円	- 千円	- 千円		- 千円
		図書購入費	1,000千円	0千円	0千円	- 千円	- 千円	- 千円		- 千円
	設備購入費	45,000千円	0千円	0千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,140千円	940千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	長野女子短期大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	食物栄養学科	2 年	55 人	— 人	110 人	短期大学士 (食物栄養 学) 【Associate degree of Food and Nutrition】	0.83 倍	昭和42 年度	長野県長野市三輪 9-11-29	
附属施設の概要		該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人 設置認可等に係る組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入 定員	収容 定員																																
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="4">長野女子短期大学</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">食物栄養学科</td> <td style="text-align: center;">55</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">110</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">55</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">110</td> </tr> </table>				長野女子短期大学				食物栄養学科	55	—	110	計	55	—	110	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="4">長野短期大学</td> <td style="text-align: right;">名称変更</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">食物栄養学科</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td style="text-align: right;">定員変更(△5)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td style="text-align: right;">学科新設</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td></td> </tr> </table>				長野短期大学				名称変更	食物栄養学科	50	—	100	定員変更(△5)	幼児教育学科	50	—	100	学科新設	計	100	—	200	
長野女子短期大学																																							
食物栄養学科	55	—	110																																				
計	55	—	110																																				
長野短期大学				名称変更																																			
食物栄養学科	50	—	100	定員変更(△5)																																			
幼児教育学科	50	—	100	学科新設																																			
計	100	—	200																																				

教 育 課 程 の 概 要																
(幼児教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基本 教育 科目	情報処理演習Ⅰ	1①	1				○								兼1	
	情報処理演習Ⅱ	1②	1				○								兼1	
	日本語表現Ⅰ（文章）	1①	1				○								兼1	
	日本語表現Ⅱ（口頭）	1②	1				○								兼1	
	英語表現Ⅰ（基礎）	1①	1				○								兼1	
	英語表現Ⅱ（応用）	1②	1				○								兼1	
	キャリアデザインⅠ	1①	1				○								兼1	
	キャリアデザインⅡ	2③	1				○								兼1	
	育児と介護	2②④		1		○									兼1	
	地域と文化	2②④		1		○									兼1	
	経済と政策	2②④		1		○									兼1	
	自然と環境	2②④		1		○									兼1	
	健康と運動Ⅰ	2③		1			○								兼1	
	健康と運動Ⅱ	2④		1			○								兼1	
	日本国憲法	2①		2		○									兼1	
小計（15科目）	—		8	8			—							兼7		
専 門 基 礎 科 目	教育原理	1①	2			○			1						兼1	オムニバス、共同（一部）
	保育原理	1①	2			○			1	1						オムニバス、共同（一部）
	保育者論	1①	2			○				1						
	保育内容総論	1②	1				○		1							
小計（4科目）	—		7	0			—	1	1					兼1		
専 門 基 幹 科 目	幼児と健康	1②		1			○			1						
	幼児と人間関係	1②		1			○								兼1	
	幼児と環境	1②		1			○		1							
	幼児と言葉	1②		1			○								兼1	
	幼児と表現（音楽表現）	1③		1			○		2							
	幼児と表現（造形表現）	1③		1			○			1						
	教育心理学	1④		2		○									兼1	
	保育の心理学	1③	2			○			1	1						オムニバス、共同（一部）
	特別支援教育・保育論Ⅰ	1④	1				○		1							
	保育・教育課程論	1②	2			○			1						兼1	オムニバス、共同（一部）
	幼児理解	1③		1		○									兼1	
	社会的養護Ⅰ	2①		2		○									兼1	
	乳児保育Ⅰ	1④		2		○									兼1	
小計（13科目）	—		5	13			—	4	3					兼7		
専 門 展 開 科 目	保育内容指導法（健康）	1③		1			○			1						
	保育内容指導法（人間関係）	1③		1			○								兼1	
	保育内容指導法（環境）	1③		1			○		1							
	保育内容指導法（言葉）	1③		1			○								兼1	
	保育内容指導法（音楽表現）	1④		1			○		2							
	保育内容指導法（造形表現）	1④		1			○			1						
	教育制度論	2①		1		○									兼1	
	特別支援教育・保育論Ⅱ	2②	1				○		1						兼1	オムニバス
	教育方法論	2②		1		○									兼1	
	教育相談	1④		2		○									兼1	
	子ども家庭福祉	1③	2			○			1	1					兼1	オムニバス、共同（一部）

専門教育科目	専門展開科目	社会福祉	1④		2		○											兼1	
		子ども家庭支援論	2①		2		○												兼1
		社会的養護Ⅱ	2②		1			○											兼1
		子ども家庭支援の心理学	1④		2		○												兼1
		子どもの理解と援助	2②		1			○											兼1
		子どもの保健	2①		2			○											兼1
		子どもの食と栄養	2①		2			○											兼1
		乳児保育Ⅱ	2②		1			○											兼1
		子どもの健康と安全	2③		1			○											兼1
		子育て支援	2③		1			○											兼1
		幼児と運動	2③		1			○				1							
		幼児と音楽	2③		1			○			2								
		幼児と造形	2④		1			○				1							
	幼児と安全	2④		1			○											兼1	
	小計 (25科目)	—	3	29			—			4	3							兼13	
	専門関連科目	心理アセスメント基礎	2③		1			○											兼1
		心理学的支援法基礎	2③		1			○											兼1
		人間関係構築力基礎	2④		1			○											兼1
		小計 (3科目)	—	0	3			—											兼2
	専門実習科目	教育実習指導	2①～2②		1			○		2	1								
		教育実習	2②		4			○		2	1								
		保育実習Ⅰ	2③		4			○		2									
		保育実習Ⅱ	2④		2			○		1	1								
		保育実習Ⅲ	2④		2			○		1	1								
		保育実習指導Ⅰ	2②		2			○		2									
保育実習指導Ⅱ		2③		1			○		1	1									
保育実習指導Ⅲ		2③		1			○		1	1									
保育・教職実践演習 (幼稚園)		2④	2				○			2									
小計 (9科目)	—	2	17			—		3	3										
合計 (69科目)		—	25	70			—		4	3								兼23	
学位又は称号	短期大学士 (教育学)			学位又は学科の分野				教育学・保育学関係											
卒業要件及び履修方法								授業期間等											
本学に2年以上在籍し、基本教育科目12単位以上 (必修科目8単位及び選択科目4単位以上)、専門教育科目52単位以上 (必修科目17単位及び選択科目35単位以上) を修得し、合計64単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限: 42単位 (年間))								1学年の学期区分				4期							
								1学期の授業期間				7.5週							
								1時限の授業時間				90分							

教 育 課 程 の 概 要

(幼児教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基本 教養 科目	情報処理演習Ⅰ	1①	1				○								兼1	
	情報処理演習Ⅱ	1②	1				○								兼1	
	日本語表現Ⅰ（文章）	1①	1				○								兼1	
	日本語表現Ⅱ（口頭）	1②	1				○								兼1	
	英語表現Ⅰ（基礎）	1①	1				○								兼1	
	英語表現Ⅱ（応用）	1②	1				○								兼1	
	キャリアデザインⅠ	1①	1				○								兼1	
	キャリアデザインⅡ	2③	1				○								兼1	
	育児と介護	2②④		1			○								兼1	
	地域と文化	2②④		1			○								兼1	
	経済と政策	2②④		1			○								兼1	
	自然と環境	2②④		1			○								兼1	
	健康と運動Ⅰ	2③		1				○							兼1	
	健康と運動Ⅱ	2④		1				○							兼1	
	日本国憲法	2①		2			○								兼1	
小計（15科目）	—		8	8			—							兼7		
専 門 基 礎 科 目	教育原理	1①	2				○			1	1				兼1	オムニバス、共同（一部）
	保育原理	1①	2				○			1	1					オムニバス、共同（一部）
	保育者論	1①	2				○				1					
	保育内容総論	1②	1					○		1						
小計（4科目）	—		7	0			—		1	1				兼1		
専 門 基 幹 科 目	幼児と健康	1②		1				○			1					
	幼児と人間関係	1②		1				○							兼1	
	幼児と環境	1②		1				○		1						
	幼児と言葉	1②		1				○							兼1	
	幼児と表現（音楽表現）	1③		1				○		2						
	幼児と表現（造形表現）	1③		1				○			1					
	教育心理学	1④		2			○								兼1	
	保育の心理学	1③		2			○			1	1					オムニバス、共同（一部）
	特別支援教育・保育論Ⅰ	1④		1				○		1						
	保育・教育課程論	1②		2			○			1					兼1	オムニバス、共同（一部）
	幼児理解	1③		1			○								兼1	
	社会的養護Ⅰ	2①		2			○								兼1	
	乳児保育Ⅰ	1④		2			○								兼1	
小計（13科目）	—		0	18			—		4	3				兼7		
専 門 展 開 科 目	保育内容指導法（健康）	1③		1				○			1					
	保育内容指導法（人間関係）	1③		1				○							兼1	
	保育内容指導法（環境）	1③		1				○		1						
	保育内容指導法（言葉）	1③		1				○							兼1	
	保育内容指導法（音楽表現）	1④		1				○		2						
	保育内容指導法（造形表現）	1④		1				○			1					
	教育制度論	2①		1			○								兼1	
	特別支援教育・保育論Ⅱ	2②		1				○		1					兼1	オムニバス
	教育方法論	2②		1			○								兼1	
	教育相談	1④		2			○								兼1	
子ども家庭福祉	1③		2			○			1	1				兼1	オムニバス、共同（一部）	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	専門展開科目	社会福祉	1④	2		○										兼1
		子ども家庭支援論	2①	2		○										兼1
		社会的養護Ⅱ	2②	1			○									兼1
		子ども家庭支援の心理学	1④	2		○										兼1
		子どもの理解と援助	2②	1			○									兼1
		子どもの保健	2①	2		○										兼1
		子どもの食と栄養	2①	2			○									兼1
		乳児保育Ⅱ	2②	1			○									兼1
		子どもの健康と安全	2③	1			○									兼1
		子育て支援	2③	1			○									兼1
		幼児と運動	2③	1			○				1					
		幼児と音楽	2③	1			○			2						
		幼児と造形	2④	1			○				1					
		幼児と安全	2④	1			○									兼1
		小計 (25科目)	—	0	32		—			4	3					
	専門関連科目	心理アセスメント基礎	2③		1			○								兼1
		心理学的支援法基礎	2③		1			○								兼1
		人間関係構築力基礎	2④		1			○								兼1
		小計 (3科目)	—	0	3		—									兼2
	専門実習科目	教育実習指導	2①		1			○		2	1					
		教育実習	2②		4				○	2	1					
		保育実習Ⅰ	2③		4				○	2						
		保育実習Ⅱ	2④		2				○	1	1					
		保育実習Ⅲ	2④		2				○	1	1					
		保育実習指導Ⅰ	2②		2			○		2						
保育実習指導Ⅱ		2③		1			○		1	1						
保育実習指導Ⅲ		2③		1			○		1	1						
保育・教職実践演習 (幼稚園)		2④	2				○		1	1						
小計 (9科目)		—	2	17		—			4	3						
合計 (69科目)		—	17	78		—		4	3						兼23	
学位又は称号	短期大学士 (教育学)	学位又は学科の分野				教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
本学に2年以上在籍し、基本教育科目12単位以上 (必修科目8単位及び選択科目4単位以上)、専門教育科目52単位以上 (必修科目9単位及び選択科目43単位以上) を修得し、合計64単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限: 42単位 (年間))						1 学年の学期区分			4 期							
						1 学期の授業期間			7.5 週							
						1 時限の授業時間			90 分							

授 業 科 目 の 概 要

（幼児教育学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 教養 科目	情報処理演習Ⅰ	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力と情報を積極的に活用する態度を身に付けることを目的とする。具体的には、情報化社会における情報の意義や役割と重要性について概説したうえで、コンピュータの基本的な仕組みやソフトウェアの利用方法、インターネットを通しての情報検索、電子メールの受信など、情報処理に関する基礎的な知識と技能について学習する。	
	情報処理演習Ⅱ	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力と情報を積極的に活用する態度を身に付けることを目的とする。具体的には、目的に応じた情報機器の活用方法及び情報の収集、加工、蓄積、検索、利用、廃棄などの情報管理の基本的な手法について学ぶとともに、収集した情報を整理、加工する二次情報の作成とデータベース検索による情報検索の基本的な手法について学習する。	
	日本語表現Ⅰ（文章）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的とする。具体的には、日本語による文章作成に関する基本的な能力の習得にむけて、良い文章を書くための基本的な技術やルールを学ぶとともに、文章を書く際の着想力や発想力、文章の構成に要求される表現技術について学習する。加えて、新聞記事などの朗読を通して効果的な朗読法について学習する。	
	日本語表現Ⅱ（口頭）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的として、日本語による発表や討論のための基本的な方法論の習得にむけて、発声や発音の訓練を通して、実践的なスピーチ能力を高めるとともに、的確な意見の述べ方や議論の進め方、論理的思考、客観的思考などについて学習する。加えて、説得力や自己表現力を高めるための技法について学習する。	
	英語表現Ⅰ（基礎）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の「話す」と「聞く」を中心とする運用能力を高めることを目的とする。具体的には、高等学校までの既習の教科目の学習内容を踏まえたうえで、日常的な場面において頻出する英語の表現について学習するとともに、自己紹介や道路案内などの実際の場面を想定した英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。	
	英語表現Ⅱ（応用）	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な英語の「話す」と「聞く」を中心とする運用能力を高めることを目的とする。具体的には、既習の英語表現Ⅰ（基礎）の学習内容を踏まえたうえで、様々な会話に使える覚えておくことのできる英語の表現について学ぶとともに、自分の意見を相手に伝えることのできる英語による応用的なコミュニケーション能力の向上を図る。	
	キャリアデザインⅠ	学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識を習得させ、自己の個性を理解した上で、主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度の育成を目的とする。具体的には、卒業生や外部講師による職業体験談を通じて、勤労観や職業観の醸成を図るとともに、自分の個性や性格を理解するための自己分析と職業選択の考え方や進め方について学習する。	
	キャリアデザインⅡ	学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識を習得させ、自己の個性を理解した上で、主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度を育成する。具体的には、外部講師による求める人材像についての理解及びビジネスマナーに関する知識や態度の習得を図るとともに、生涯学習の観点から目標設定や目標達成のための考え方について学習する。	

基本教養科目	育児と介護	高齢化社会の進展に伴う核家族化や単身世帯の増加など現代社会が抱える問題点や課題点についての認識を深めるとともに、現代家族の機能や役割と家族制度や家族関係をめぐる諸問題について考える。また、現代社会における子育て不安や児童虐待などの育児問題と育児制度のあり方について考察するとともに、介護問題の多様性と介護の重要性や家族介護のあり方について考える。	
	地域と文化	日本古来の伝統や習慣を歴史や文化の変遷と関連付けて理解し、他者に対して発信できる知識や態度を身に付けることを目的とする。日本や地域の伝統的な宗教や行事、生活や伝承、芸道や芸能、芸術や音楽などの学習を通して、郷土文化や生活文化の諸相について理解するとともに、国家や象徴、精神などの生活様式の題材を調査・分析することで、伝統継承や文化振興に貢献する態度を養う。	
	経済と政策	社会的に重要な経済に関する主題や現代社会が直面する経済的な諸課題に関する知識と総合的に判断し対処する能力を養うことを目的とする。現代経済の基本的な概念と枠組みについて概説したうえで、経済的な見方や捉え方、考え方について学習するとともに、現代社会における経済構造と経済政策との関連性や経済問題の多様性の理解を通して、経済活動や経済現象に対する興味と関心を深める。	
	自然と環境	大気汚染・水質汚濁・森林破壊・異常気象・自然災害・自然保護等の自然環境や公害問題・騒音問題・廃棄物処理・二酸化炭素削減等の社会環境及び持続可能社会・循環型社会・環境共生都市等の都市環境など、地球規模で生じている環境現象の題材を取り上げて考察することで、環境に対する問題意識を高めるとともに、環境劣化・環境汚染・環境破壊・環境攪乱などの課題と対策に関する理解を深める。	
	健康と運動Ⅰ	健康と安全や運動についての理解と運動の実践を通して、計画的に運動をする習慣を育てるとともに、健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。具体的には、社会生活における健康と安全について概説したうえで、運動の実践を通して、運動の楽しさや喜び及び運動の多様性や体力の必要性について学ぶとともに、各種の運動の特性に応じた技能や能力を身に付ける。	
	健康と運動Ⅱ	適切な運動の経験を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。具体的には、生涯を通じる健康と健康を支える環境づくりについて理解したうえで、生涯スポーツの目的と意義や役割について学ぶとともに、個人の生活、健康状態、年齢及び体力に応じた生涯スポーツの実践や方法について理解する。	
	日本国憲法	日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構について概観したうえで、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治などについて学び、民主政治の本質や現代政治の特質について学習するとともに、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治や主権者としての政治参加の在り方について考察する。	

専門教育科目 専門基礎科目 基本基幹科目	教育原理	<p>(概要)</p> <p>教育の理念及び教育に関する歴史と思想や制度等についての学習を通して、教育に関する基礎的な理論について理解する。 (オムニバス方式/全15回) (2 副島里美、16 越智康詞/1回) (共同)</p> <p>本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 (①副島里美/3回)</p> <p>教育の意義と目的及び乳幼児期の教育の特性について概説したうえで、教育と子ども家庭福祉の関連性について学習する。 (2 副島里美/2回)</p> <p>教育内容・教育方法・教育計画と教育評価など教育実践の基礎理論について概説したうえで、教育実践の多様な取り組みについて解説する。 (16 越智康詞/6回)</p> <p>教育に関する歴史と思想について解説するとともに、近代教育制度の成立と展開及び教育法規や教育行政について学習する。 (16 越智康詞/2回)</p> <p>生涯学習社会における教育の現状について概説するとともに、現代社会における教育課題について考察する。 (2 副島里美、16 越智康詞/1回) (共同)</p> <p>本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度について確認を行う。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	保育原理	<p>(概要)</p> <p>保育の意義と目的や法令と制度及び保育の基本や保育の思想と歴史の変遷並びに保育の現状と課題について学習する。 (オムニバス方式/全15回) (2 副島里美、6 中野明子/1回) (共同)</p> <p>本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 (2 副島里美/7回)</p> <p>保育所保育指針と保育所保育に関する基本原則について解説したうえで、保育の基本について学ぶとともに、保育の思想と歴史の変遷及び保育の現状と課題について学習する。 (6 中野明子/6回)</p> <p>保育の意義及び目的について概説したうえで、保育に関する法令と制度及び保育の実施体系について学ぶとともに、諸外国における保育の現状について考察する。 (2 副島里美、6 中野明子/1回) (共同)</p> <p>本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度について確認を行う。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	保育者論	<p>保育者に求められる役割と職務内容や倫理及び保育者の資格と責務や資質と能力について解説するとともに、養護及び教育の一体的展開について学習する。そのうえで、家庭との連携と保護者に対する支援及び保育における職員間や専門職間及び専門機関等との連携と協働について学習するとともに、保育者研修の意義と目的や保育者の専門性の向上とキャリア形成について学習する。</p>	
	保育内容総論	<p>幼稚園教育の基本に基づく指導の考え方及び保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容について解説したうえで、保育の基本を踏まえた保育内容の展開及び保育の多様な展開について学習する。また、幼稚園教育における発達を見通した指導計画の考え方や指導計画の作成と評価及び園行事のあり方などについて学ぶとともに、教材の工夫や保育記録の書き方など、幼稚園における具体的な指導について学習する。</p>	
	幼児と健康	<p>領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達と生活習慣や安全な生活及び運動発達などに関する知識の習得を目的として、幼児期の健康課題と健康の発達の意味について解説するとともに、幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成について学習する。そのうえで、乳幼児の安全な生活と怪我や病気の予防について学ぶとともに、幼児期の運動発達の特徴と身体活動の在り方について学習する。</p>	

専門教育科目 専門基幹科目	幼児と人間関係	領域「人間関係」の指導の基盤となる幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識の習得を目的として、幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景及び現代的課題について解説したうえで、乳幼児に育つ人と関わる力の発達や幼児期に育つ人と関わる力の発達について学習するとともに、自立心や協同性の育ち及び道徳性や規範意識の芽生えと発達について学習する。	
	幼児と環境	領域「環境」の指導に関連する幼児を取り巻く環境や幼児と環境の関わりについての専門的事項における知識や技能の習得を目的として、幼児を取り巻く環境の諸側面と幼児の発達にとっての意義と重要性について解説したうえで、幼児の身近な環境との関わりにおける思考や科学的概念の発達について学ぶとともに、幼児期の標識・文字等及び情報・施設との関わりや発達の発達について学習する。	
	幼児と言葉	領域「言葉」の指導の基盤となる幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識の習得を目的として、人間にとっての言葉の意義や機能と乳幼児の言葉の発達過程について解説したうえで、言葉に対する感覚を豊かにする実践について学ぶとともに、幼児の発達における児童文化財の意義及び児童文化財の知識と活用について学習する。	
	幼児と表現（音楽表現）	領域「表現」の指導に関する幼児の音楽表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする音楽表現の知識や技能と表現力の習得を目的として、幼児の音楽表現を生成する過程について解説したうえで、音楽表現に関する知識や技能の学習を通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにするとともに、音楽表現の知識と技能を活かした幼児の表現活動の展開について学習する。	
	幼児と表現（造形表現）	領域「表現」の指導に関する幼児の造形表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする造形表現の知識や技能と表現力の習得を目的として、幼児の造形表現を生成する過程について解説したうえで、造形表現に関する知識や技能の学習を通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにするとともに、造形表現の知識と技能を活かした幼児の表現活動の展開について学習する。	
	教育心理学	心身の発達の過程と特徴及び発達の概念と教育における発達理解の意義について解説したうえで、乳幼児期から青年期における運動・言語・認知・社会性の発達について学ぶ。そのうえで、様々な学習の形態と概念や過程について解説するとともに、主体的な学習を支える動機づけや集団づくりと学習評価のあり方及び心身の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方について学習する。	
	保育の心理学	(概要) 乳幼児期の子どもの発達を捉える視点及び学びの過程や特性についての学習を通して、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (4 瑞穂優、6 中野明子／1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 (4 瑞穂優／5回) 発達理解の現代的な視点と発達支援の総合的な視点について解説したうえで、発達に遅れや偏りがある子どもの理解と支援について学習する。 (6 中野明子／8回) 乳幼児期の子どもの発達の過程や特性について解説するとともに、乳幼児期の学びの過程と特性及び学びを支える保育実践について学習する。 (4 瑞穂優、6 中野明子／1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度について確認を行う。	オムニバス方式 ・共同(一部)
	特別支援教育・保育論Ⅰ	特別な支援を必要とする幼児の理解にむけて、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて概説したうえで、特別の支援を必要とする幼児の心身の発達と学習の過程及び様々な障害のある幼児の教育上及び生活上の困難について学習する。また、特別の支援を必要とする幼児の教育課程と支援の方法及び特別の教育ニーズのある幼児の学習上又は生活上の困難と対応について学習する。	

専門 基幹 科目	保育・教育課程論	<p>(概要)</p> <p>教育課程の意義や編成の方法とカリキュラム・マネジメントの意義について理解するとともに、保育の計画と評価及び指導計画の作成方法と保育の過程について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 瑞徳優、19 杉浦英樹／1回) (共同)</p> <p>本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。</p> <p>(4 瑞徳優／8回)</p> <p>保育の計画と評価の基本について解説したうえで、保育所における保育の計画と指導計画の作成及び保育所における保育の評価と改善の取組みについて学習する。</p> <p>(19 杉浦英樹／5回)</p> <p>幼稚園教育要領の性格と位置づけや改訂の変遷について解説したうえで、教育課程編成の目的と方法及びカリキュラム・マネジメントの意義と重要性について学習する。</p> <p>(4 瑞徳優、19 杉浦英樹／1回) (共同)</p> <p>本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度について確認を行う。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	幼児理解	<p>幼児理解の意義と幼児理解から発達や学びを捉える原理について解説したうえで、幼児理解を深めるための基礎的な態度について学ぶ。そのうえで、幼児理解のための観察と記録の意義や目的に応じた観察法について学ぶとともに、幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずきとその要因を把握するための原理や対応の方法について学習する。</p>	
	社会的養護 I	<p>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について概説したうえで、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本原則及び社会的養護における保育士等の倫理と責務について解説する。そのうえで、社会的養護の制度や法体系と仕組みや実施体系及び社会的養護の対象や形態と関係する専門職等について学ぶとともに、社会的養護に関する社会的状況や課題について学習する。</p>	
	乳児保育 I	<p>乳児保育の意義と目的や歴史の変遷及び乳児保育の役割と機能について概説するとともに、保育所や乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について考察する。そのうえで、3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育の内容と援助や配慮及び運営体制について学ぶとともに、乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働について学習する。</p>	
	専門 展開 科目	保育内容指導法 (健康)	<p>幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「健康」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「健康」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成について学ぶとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法について学習する。</p>
保育内容指導法 (人間関係)	<p>幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「人間関係」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「人間関係」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成について学ぶとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法について学習する。</p>		
保育内容指導法 (環境)	<p>幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「環境」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「環境」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成について学ぶとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法について学習する。</p>		
保育内容指導法 (言葉)	<p>幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「言葉」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成について学ぶとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法について学習する。</p>		

専門教育科目 専門展開科目	保育内容指導法（音楽表現）	幼稚園教育要領に示された領域「音楽表現」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「音楽表現」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「音楽表現」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成について学ぶとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法について学習する。	
	保育内容指導法（造形表現）	幼稚園教育要領に示された領域「造形表現」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「造形表現」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「造形表現」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成について学ぶとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法について学習する。	
	教育制度論	社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響と課題及び課題に対応するための教育政策の動向について解説したうえで、現代公教育の意義や原理と構造についての法的・制度的仕組みについて学習する。そのうえで、学校や教育行政機関の目的及び学校と地域との連携の意義や協働について、取り組み事例を踏まえながら学ぶとともに、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組みについて学習する。	
	特別支援教育・保育論Ⅱ	(概要) 障害児保育を支える理念及び障害児や特別な配慮を要する子どもの理解と保育における発達の援助や家庭への支援並びに障害児保育の現状と課題について理解する。 (オムニバス方式/全8回) (2 副島里美/4回) 障害の概念と障害児保育の歴史の変遷について解説するとともに、障害児と特別な配慮を要する子どもの保育の実際及び現状と課題について考察する。 (25 細瀬富夫/4回) 肢体不自由児・知的障害児、視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児、発達障害児、重症心身障害児・医療的ケア児の理解と発達の援助について学習する。	オムニバス方式
	教育方法論	これからの社会を担う子供たちに求められる資質や能力を育成するために必要な教育の方法や在り方について概説したうえで、育みたい資質や能力と幼児理解に基づいた評価の考え方について学習する。そのうえで、保育を行う上での教育の方法と技術や指導案の作成について学ぶとともに、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成や活用について学習する。	
	教育相談	教育相談の意義と役割及び幼児の発達の状況に即しつつ、幼児の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要なカウンセリングの意義と理論や方法について学ぶとともに、幼児や保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や幼児の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方と教育相談の計画の作成や校内体制の整備など、組織的な取組み及び専門機関等との連携について学習する。	

専門教育科目 専門展開科目	子ども家庭福祉	<p>(概要) 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷及び制度や実施体系並びに子ども家庭福祉の現状と課題や動向と展望について学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (2 副島里美、6 中野明子、13 吉澤恵子／1回) (共同) 本科目を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 (2 副島里美／4回) 子ども家庭福祉の現状と課題について、多様な保育ニーズ、子ども虐待、DV、障害のある子ども、貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応などを取り上げながら考察する。 (6 中野明子／2回) 児童の権利の尊重及び確保の観点から必要となる詳細かつ具体的な事項を規定した児童の権利に関する条約について解説するとともに、海外の子育て支援の現状について考察する。 (13 吉澤恵子／7回) 子ども家庭福祉の理念と概念について概説するとともに、子ども家庭福祉及び子どもの人権擁護の歴史の変遷について考察したうえで、子ども家庭福祉の動向と展望について考える。 (2 副島里美、6 中野明子、13 吉澤恵子／1回) (共同) 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度について確認を行う。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	社会福祉	社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について解説したうえで、社会福祉の制度や法体系と社会福祉行財政や社会福祉施設及び社会保障や関連制度について概説する。そのうえで、社会福祉における相談援助の意義と機能や対象と過程及び方法と技術について学ぶとともに、社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み及び社会福祉の動向や課題について学習する。	
	子ども家庭支援論	子育て家庭に対する支援の意義と役割や必要性及び目的と機能について概説したうえで、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について解説する。そのうえで、子育て家庭の福祉を図るための社会資源や子育て支援施策・次世代育成支援施策など、子育て家庭に対する支援の体制について学ぶとともに、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状と課題について学習する。	
	社会的養護Ⅱ	子どもの理解を踏まえた日常生活支援、治療的支援、自立支援などの社会的養護の基礎的な内容について概説するとともに、施設養護及び家庭養護の生活特性と実際について解説する。そのうえで、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際と社会的養護に関わる相談援助の方法や技術について学ぶとともに、社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援及び今後の課題と展望について考察する。	
	子ども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識について学ぶとともに、初期経験の重要性や発達課題等について学習する。また、家族や家庭の意義と機能について学ぶとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から考察し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点について学習する。そのうえで、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題及び子どもの精神保健とその課題について学習する。	
	子どもの理解と援助	保育実践において実態に即した子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義と子どもの体験や学びの過程において子どもを理解するうえで視点と基本的な考え方について解説したうえで、子どもを理解するための具体的な方法について学ぶとともに、発達の課題に応じた援助と関わりや特別な配慮を要する子どもの理解と援助など、子ども理解に基づく援助や態度の基本について学習する。	
	子どもの保健	健康の概念と健康指標及び保健活動の意義と目的について概説したうえで、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題及び子どもの心身の健康増進を図る保健活動について解説する。そのうえで、身体発育及び運動機能並びに生理機能の発達と保健について学ぶとともに、子どもの心身の健康状態とその把握の方法及び子どもの主な疾病の特徴や子供の疾病の予防と適切な対応について学習する。	

専門教育科目
専門展開科目

子どもの食と栄養	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養と子どもの発育・発達と食生活の関連について解説するとともに、養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義と目的や基本的考え方とその内容等について学習する。そのうえで、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題及び関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえながら、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学習する。	
乳児保育Ⅱ	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について解説したうえで、養護及び教育の一体性を踏まえた3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的な事例を取り上げながら考察する。そのうえで、乳児保育における配慮の実際について学ぶとともに、乳児保育における計画の作成について、具体的な事例を取り上げながら学習する。	
子どもの健康と安全	保育における保健的観点や安全対策・危機管理・災害対策について概説する。そのうえで、子どもの体調不良等に対する適切な対応や感染症対策など、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的な事例を取り上げながら学ぶとともに、子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画及び評価等について学習する。	
子育て支援	子どもの保育とともにを行う保護者の支援や日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成など、保育士の行う子育て支援の特性について概説したうえで、子育て支援の計画と実践や社会資源の活用などの展開について学ぶとともに、保育士の行う子育て支援と実際について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について、実践事例等を通して具体的に学習する	
幼児と運動	保育における遊びを取り入れた身体活動の実践に求められる専門的な技術を高めることを目的として、体を動かす遊びやボール遊びなどの多様な動きの実践や道具を使った遊びと道具を使わない遊びなど手軽で楽しい遊びの実践に関する具体的な事例を取り上げながら、幼児期における身体活動の実践方法に関する知識や技術を実際の保育実践と結び付けて捉えることについて学習する。	
幼児と音楽	保育における歌やピアノと弾き歌いの技術の習得と表現力の向上を図ることにより、乳幼児の豊かな感性と表現力を引き出し育てるための表現技術と感性を高めることを目的として、歌やピアノ及び弾き歌いなどの音楽表現活動の実践に求められる専門的な技術を高めるとともに、音楽表現活動の実践方法に関する知識や技術を実際の保育実践と結び付けて捉えることについて学習する。	
幼児と造形	保育における画材や色彩と造形の技術の習得と表現力の向上を図ることにより、乳幼児の豊かな感性と表現力を引き出し育てるための表現技術と感性を高めることを目的として、画材や色彩及び造形などの造形表現活動の実践に求められる専門的な技術を高めるとともに、造形表現活動の実践方法に関する知識や技術を実際の保育実践と結び付けて捉えることについて学習する。	
幼児と安全	幼稚園や保育園、認定子ども園などの教育・保育施設において多発しているさまざまな事故の現状について概説したうえで、教育・保育施設において起こりがちな事故について、過去の事例を踏まえながら解説するとともに、事故が発生した主な原因などを取り上げながら、事故を防ぐためには何をすべきか、子どもの命を守るために何ができるのかなど、事故の防止と対策のポイントについて学習する。	

専門 関連 科目	心理アセスメント基礎	面接や観察などを通して、相手を様々な視点から捉え、相手が抱えている問題を理解するための基礎的な知識と方法について学ぶ。具体的には、心理アセスメントの意義と目的及び心理アセスメントの分類と基本的手順や手法について解説したうえで、対象者の情報の見極めと適切な判断及び信頼関係の構築やプライバシーの遵守など、心理アセスメントにおける留意点について学習する。	
	心理学的支援法基礎	幼児教育や保育の実践に役立つ心理学的な対人援助に関する基礎的な知識と方法について理解する。具体的には、心理学的支援の意義や目的と心理学的支援法の特徴について概説したうえで、心理学的支援法の基礎的な理論と方法について学習する。加えて、幼児期における特徴的な心理的問題について考察するとともに、心理学的支援法の実際や心理学的支援における留意点について学習する。	
	人間関係構築力基礎	自己と他者との関係、他者相互間の関係の理解と人間関係の多様なあり方について学ぶとともに、他者との円滑な人間関係を構築するための知識と方法について学習する。具体的には、教育・保育現場における幼児や保護者及び上司や同僚との人間関係について考察するとともに、質問力、傾聴力、共感力等のコミュニケーションに重要となる要素と技法について、実践事例を取り上げながら学習する。	
専門 教育 科目	教育実習指導	教育実習の意義や目的の理解と実習の内容の理解もと、実習生として遵守すべき義務等について理解し、自らの実習の課題を明確にしたうえで、教育実習生として教育活動に参画する意識を高めるとともに、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。また、教育実習で得た知識と経験の振り返りを通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。	
	教育実習	幼児や教育環境等に対する適切な観察を行い、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、幼児の実態や課題を把握するとともに、実習園の経営方針と教育活動や組織体制などについて理解する。また、適切な指導案の作成や保育に必要な基礎的技術の習得と学級担任の役割や職務内容の理解など、既習の領域や教職に関する専門的な知識や理論と技術等を保育で実践するための基礎を身に付ける。	
	保育実習 I	保育所や児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めるとともに、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援についての総合的に理解する。また、保育の計画・観察・記録及び省察・自己評価等について具体的に理解するとともに、専門職としての保育士の業務内容と役割や職業倫理について具体的に理解する。	
	保育実習 II	保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深めるとともに、子どもの観察や関わり視点の明確にすることを通して、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。また、保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組むとともに、保育士の業務内容や職業倫理について、実践に結びつけて理解する。そのうえで、事後指導を通して、実習における自己の課題を明確化する。	
	保育実習 III	既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解するとともに、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援や家庭支援のための知識と技術や判断力及び保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。また、事後指導を通して、実習における自己の課題を明確化する。	
	保育実習指導 I	保育実習の意義や目的を理解し、実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にしたうえで、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務等について理解するとともに、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。また、事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。	
	専門 実習 科目		

専門教育課 目	専門実習科目	保育実習指導Ⅱ	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解するとともに、実習や既習の教科目の内容とその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。また、保育の観察や記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解するとともに、保育士の専門性と職業倫理について理解する。そのうえで、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	
		保育実習指導Ⅲ	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解するとともに、実習や既習の教科目の内容とその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。また、保育の観察や記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解するとともに、保育士の専門性と職業倫理について理解する。そのうえで、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	
		保育・教職実践演習（幼稚園）	教育課程全体を通じて学習した自らの学びを振り返り、保育者になるための課題を整理し、保育者の意義と役割、職務内容、責任を改めて確認し、幼児の家庭や保護者との関わり、学級経営と職員間の連携、地域との連携、対人関係能力の構築について学ぶとともに、教材開発や指導案に基づく保育の実践について、現職者との意見交換や模擬保育によるグループワークを通じて学ぶ。	